

4.黒毛和種における牛白血病ウイルス浸潤状況

○松田 克也 (豊橋市食肉衛生検査所)
下司 高弘 (")
岡地 潔 (")
合川 敏彦 (")
山内 俊平 (")
細井 美博 (")

【はじめに】

牛白血病は、地方病性と散発性に分類される。地方病性は牛白血病ウイルス(BLV)の感染が原因であり、と畜場でみられる牛白血病の多くは地方病性である。国内での牛白血病の発生頭数は近年急増しており、当所においても牛白血病と診断した牛が増加傾向にある。特に黒毛和種の肥育牛で発生率の増加がみられ、農場における BLV 感染の拡大が示唆された。そこで今回、黒毛和種の肥育牛における BLV 浸潤状況について調査した。

【材料および方法】

2010年8月から2011年4月に管内と畜場に搬入された黒毛和種196頭(48肥育農家)を調査対象とし、受身赤血球凝集反応法(牛白血病抗体アッセイキット「日生研」、日生研株式会社)によりBLV抗体価を測定し、16倍以上を陽性とした。また、BLV抗体陽性であった牛(以下陽性牛)については、個体識別番号より飼養歴および受精卵移植(以下ET)の状況についても調査した。

【結果および考察】

調査対象中陽性牛は28頭(14.3%)であった。これは村上ら¹⁾が報告した肉用肥育牛の平均抗体陽性率(8%)より高値を示し、管内と畜場に搬入された黒毛和種肥育牛でBLVが広く浸潤していると考えられた。感染経路を確認するための遡り調査では、陽性牛を出荷した肥育農家は17戸(35.4%)、うち7戸(41.2%)で各2頭、2戸(11.8%)で各3頭の陽性牛を認めた。陽性牛が出生した繁殖農家は26戸、うち2戸(7.7%)で各2頭の陽性牛を認めた。また調査対象中ET産子は79頭、うち12頭(15.2%)が陽性牛であり、ET産子以外の117頭では16頭(13.7%)が陽性牛であった。両者の陽性率は χ^2 検定により有意差はみられなかった。以上からBLVの感染経路は水平感染を中心としたものと示唆された。

BLV浸潤の拡大を防ぐためには、水平感染の防止等の他、抗体陽性牛の計画的な摘発淘汰についても考慮する必要があることから、検査結果を陽性牛を認めた肥育農家および家畜保健衛生所に情報提供した。今後も牛白血病の清浄化に資するため、農林水産部局や臨床獣医師等との協力体制を強固なものにしていきたい。

【引用文献】

1)村上賢二、小林創太、筒井俊之：我が国の地方病性牛白血病の発生動向と対策－その現状と課題一、日獣会誌、62、499-502(2009)